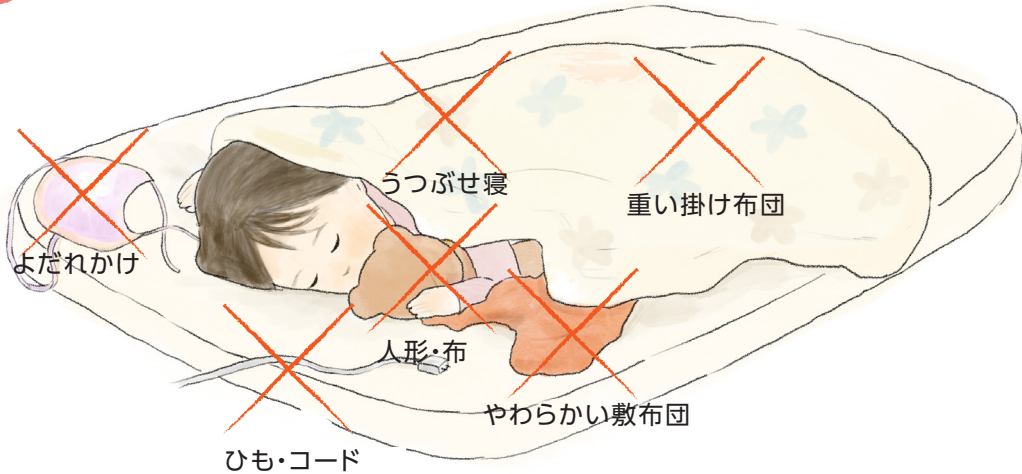


ねる

ときにきをつけること

こどもの 重大な事故を防ぐための ポイント ねる・たべる・みずあそび

暫定版



① 乳児の睡眠中は次のことに気をつけましょう

- すぐに異変を察知できるよう、こどもを一人にしない
- 医学的な理由で医師からうつぶせ寝を勧められている場合以外はおおむけに寝かせる(うつぶせ寝の状態顔が横向きの体勢も避ける)
- 鼻や口がふさがれないよう、顔が埋まるほどのやわらかい敷布団、払いのけられないほど重い掛け布団や、ぬいぐるみ等を使用しない
- 首に巻き付かないよう、よだれかけのヒモ、ふとんカバー内側のヒモ、ベッドまわりの電源コードなどヒモまたはヒモ状のものを置かない

② 乳児の様子を確認しましょう

- のどや気管につまらせないよう、口の中に異物や、ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する
 - 職場のマニュアルやチェック表などに応じて定期的にこどもの身体に触れて呼吸・体位、睡眠状態を点検する
 - 預け始めの時期は慣らし保育を行うなど特に注意深く見守る
- ※ 乳児のほか、こどもの発達や健康状態によっては1歳以上でも定期的な確認を行い、状況に応じておおむけに寝かせる

ねるときにひそむリスク



- 睡眠中、うつぶせ寝でぐったりしているのを発見される死亡事故が繰り返し起きています。睡眠中は、窒息のほか、乳幼児突然死症候群(SIDS)のおそれがあり、予防方法は確立していませんが、うつぶせ寝の方がSIDSの発症率が高いとされています。
- やわらかい布団やぬいぐるみ等が鼻や口をふさいだり、ヒモまたはヒモ状のものが首に巻き付いたりして窒息するリスクがあります。
- 預け始めは事故が多く、過去の事故検証報告ではリスクが高いと指摘されています。こどものストレスや、発達状況の把握が必ずしも十分ではないことが影響している可能性もあります。

たべる

ときにきをつけること

こどもの 教育・保育施設等の職員向け 重大な事故を防ぐための ポイント ねる・たべる・みずあそび

過去に事故が発生した食材



ナッツ・豆類



白玉団子



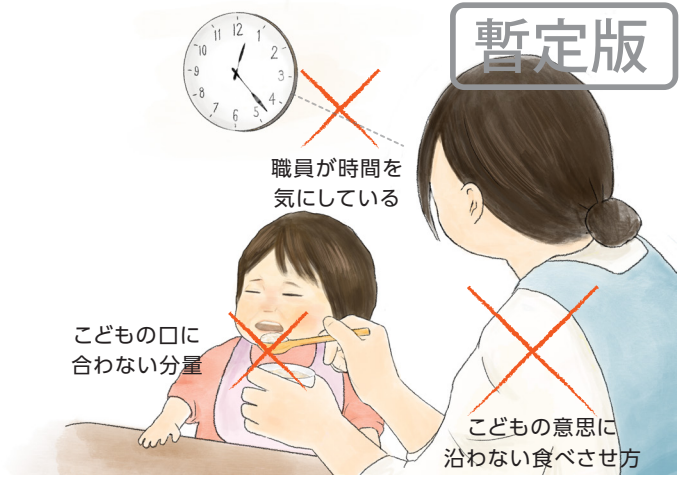
ミニトマト



りんご

① 食材については次のことに気を付けましょう

- こどもの年齢月齢によらず、普段食べている食材が窒息につながる可能性があることを認識する
- その上でナッツ・豆類(ピーナッツなど)、ミニトマト(プチトマト)、白玉団子、ぶどうなど、球形・かたい・粘着性が高いといった形状や性質の食べ物は避ける
- りんごなど、かむことで細かくなったとしても、かたさ、切り方によってはつまりやすい食材も、基本的に使用を避け、どうしても食べさせる場合は、離乳食完了期までは加熱して与える



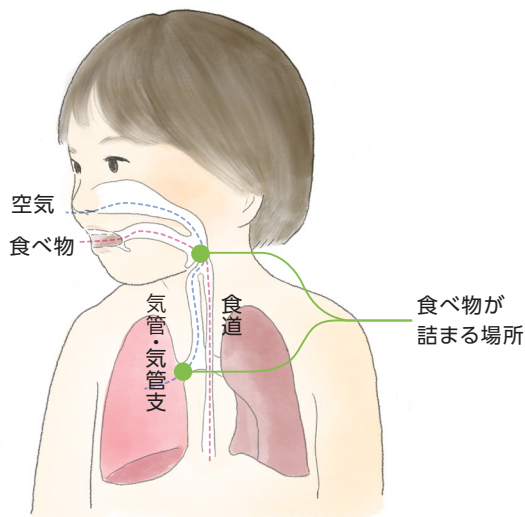
② 食事の与え方・介助の仕方に配慮しましょう

- のどや気管につまらせないよう、食べ物はこどもの口に合った量で与え、汁物などの水分を適切に与える
- こどもの意志に沿うタイミングで与え、眠くなった、もう食べたくないといった食べることに集中できない様子を確認したら無理に食べさせない
- 食事中に驚かせない

③ こどもの様子を共有・観察しましょう

- 食事前には保護者や職員間でこどもの食事に関する情報を共有する(食べるための機能や食事に関する行動の発達状況、当日の健康状態など)
- 食べ物を飲み込んだことを確認する(口の中に残っていないか注意)
- 食事中に眠くなっていないか・姿勢よく座っているかを注意する

たべるときにひそむリスク



● 奥歯が生えそろわず、かみ砕く力や飲み込む力が十分ではないこどもは、硬くてかみ砕く必要のあるナッツ・豆類などをのどや気管に詰まらせて窒息(ちっそく:食べ物がのど等につまること)したり、小さなかけらが気管に入り込んで肺炎や気管支炎を起こしたりするリスクがあります。

● 食べ物を口に入れたままで、走ったり、寝転んだり、笑ったり、泣いたり、驚いたり、声を出したりしたあと、一気に息を吸い込むと口の中の食物片が気管支に吸い込まれて、窒息・誤嚥(ごえん:食べ物などが気管や気管支に入ること)のリスクがあります。

★ 窒息・誤嚥については消費者庁Webページも参考にしてください。

消費者庁 こどもの窒息・誤嚥 Q で検索
またはQRコードからアクセス



みずあそび

のときにきをつけること

こどもの 重大な事故を防ぐための ポイント ねる・たべる・みずあそび

暫定版

① 監視体制を確保しましょう

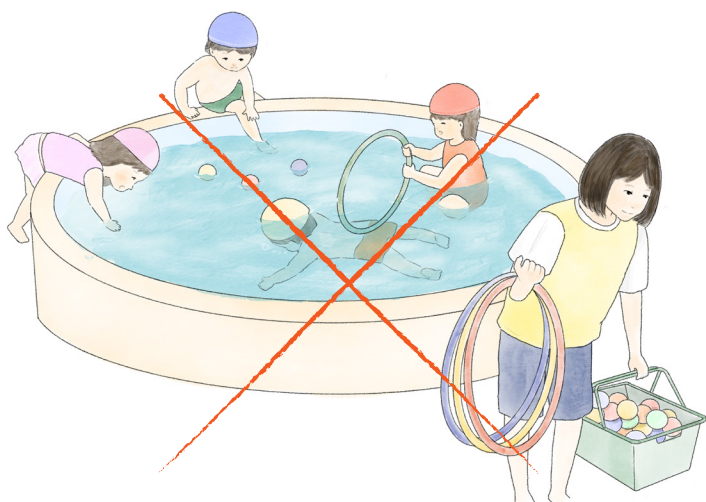
- 「専ら監視を行う者」と「指導等を行う者」を分けて配置し、役割分担を明確にする
- 十分な監視体制の確保ができない場合は、プール活動・水遊びの中止も選択肢とする

② 監視者は監視に専念し、 こどもから目を離さないようにしましょう

- 監視者は、片付け、こどもの相手など他の作業を行わない（時間的余裕をもつ）
- 誰が監視者であるか分かる目立つ色の帽子などを身につけ、こどもに「監視の先生はみんなを守ることが仕事なので、話しかけない・用を頼まない・一緒に遊んだりできない」ことを知らせておく
- 監視者は、エリア全域を見渡せる場所から定期的に視線を動かしながら監視し、動かないこどもや、集団から外れて動くなど不自然な動きをしているこどもを見つける



みずあそびのときにひそむリスク



- 過去に、監視役の先生が、遊具の片付けなど、ほかの作業を行っていて、ふと目を話したすきに、こどもがおぼれた事故が起きています。
- 監視場所に近いところや、浅い場所など、一般に安全と思われる場所も、おぼれる可能性があります。
- おぼれるときは、助けを求めたり、苦しくて暴れるといった反応とは限らず、静かにおぼれることも多いと言われています。

★みずあそびについては消費者庁Webページも参考にしてください。

消費者庁 水遊び Q で検索
またはQRコードからアクセス



応急処置

こどもの 教育・保育施設等の職員向け 重大な事故を防ぐための ポイント ねる・たべる・みずあそび

暫定版

もしこどもの窒息などが起きてしまったら

たった数分で呼吸が止まり、心停止してしまう可能性があります。

すぐに119番・応急処置を開始しましょう。

心肺蘇生法 胸骨圧迫(心臓マッサージ)



※乳児は胸を指2本で押す

背部叩打法



※乳児は片腕にうつぶせに乗せ顔を支えて、頭を低くして、
背中の中の真ん中を平手で叩く

胸部突き上げ法



腹部突き上げ法



※乳児は除く

★玩具や食べ物などによる窒息のメカニズム・事故が起きてしまった際の対処法は、
政府広報オンラインWebページも参考にしてください。

窒息事故から子どもを守る Q



参照資料

- 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン(こども家庭庁)
<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/effort/guideline/>
- 教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議年次報告(こども家庭庁)
- 乳幼児突然死症候群(SIDS)について(こども家庭庁Webページ)
<https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/kenkou/sids/>
- 食品による子どもの窒息・誤嚥(ごえん)事故に注意!(消費者庁Webページ)
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/
- 幼稚園等のプール活動・水遊びでの溺れ事故を防ぐために(消費者庁Webページ)
https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/teaching_material/



- ～食品による窒息子どもを守るためにできること～(日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会)

監修

令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』等の効果的な周知方策についての調査研究事業」検討委員会

編集・発行

PwCコンサルティング合同会社